

特集

第203回
地元企業動向調査結果【2025年1~3月期】

～『景況感DIは△10.6と13.4ポイント低下し、2期ぶりに悪化』～

概要

1. 景況判断（所属業界の景気判断）

県内企業景況感DI今期（2025年1~3月期／前期比）：2期ぶりに悪化。

県内企業景況感DI来期（2025年4~6月期／前期比）：上昇の見通し。

2. 企業（自社）の経営状況

- (1) 売上高：売上高DIは、4期ぶりに悪化。
- (2) 生産高・受注高・操業率：生産高DI・受注高DI・操業率DIは、いずれも低下。
- (3) 製商品の在庫水準：製造業・非製造業いずれも過剰感が強まった。
- (4) 仕入・販売価格：仕入価格DI・販売価格DIは、いずれも2期連続上昇。
- (5) 経常利益：経常利益DIは、2期ぶりに悪化。
- (6) 生産・営業用設備：前期から横ばい。
- (7) 資金繰り：資金繰りDIは、2期連続で改善。

3. 雇用人員

：2期ぶりに不足感が弱まった。

4. 経営上の問題点、経営戦略

- (1) 経営上の問題点：製造業は「売上（受注）の不振」が、非製造業は「人員不足」が最多。
- (2) 重視する経営戦略：製造業は「既存製商品・サービスの高付加価値化」が、非製造業は「人材育成」が最多。

5. 設備投資の動向

設備投資実績（実施企業の割合）は、製造業が上昇、非製造業が低下。

■「DI」とは

アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加、過剰等）」「中立（不变、適正等）」「マイナス（悪い、減少、不足等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した企業割合から「マイナス」と回答した企業割合を差し引きした指数をDI(Diffusion Index)という。

■調査結果について

- 本結果では、特に断りのない限り、奈良県企業の数値・分析結果を述べている。
- 近隣他府県の企業については、サンプル数が少ないため、参考数値として「全産業」のDIを公表。
- 図表等の数値については、四捨五入の関係で内訳と合計値などが合わない場合がある。

1 景況判断

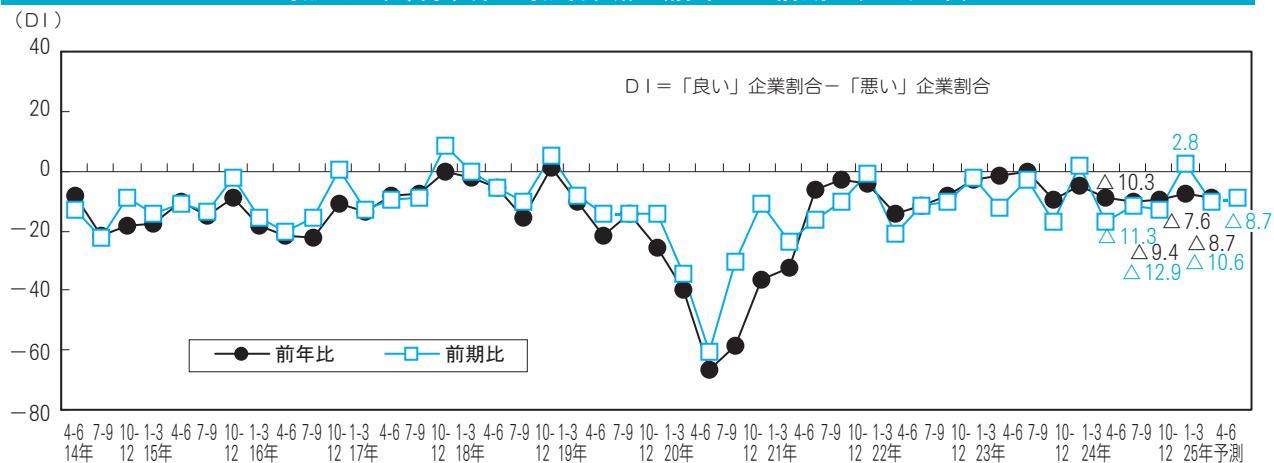
1. 景況感（所属業界の景気判断）～景況感DIは2期ぶりに悪化～

2025年1~3月期の県内企業の景況感DI（前期比）は△10.6と13.4ポイント低下し、2期ぶりに悪化した。食料品価格などの上昇を背景とした個人消費の停滞に加え、原材料価格の高騰が企業収益を圧迫しており、製造業、非製造業ともに業況が悪化した。

来期の景況感DI（前期比）は△8.7と1.9ポイント上昇の見通し。先行きは、個人消費やインバウンド需要の拡大に加え、人手不足を背景に企業の設備投資が継続される見込みから、やや持ち直しを予想する。

なお、米国との関税交渉結果次第では、大きく経済が下押しされるため、注視が必要であろう。

景況感（所属業界の景気判断）（前年比・前期比、全産業）



主要業種（所属業界）の動向

業種別にみると、製造業は△12.5と12.5ポイント低下。機械工業（+10.0ポイント）と金属製品・非鉄（+5.3ポイント）を除く全ての業種で低下した。

非製造業は△8.8と14.2ポイント低下。小売業（+14.4ポイント）と不動産業（+13.1ポイント）を除く全ての業種で低下した。ホテル・旅館は、秋のレジャーシーズンの需要を取り込んだ前期の反動が見られた。

来期は、製造業は△9.4と3.1ポイント上昇、非製造業も△8.1と0.7ポイント上昇の見通し。

主要業種（所属業界）の動向

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前期比DI			
		前 期 10~12月期 A	今 期 1~3月期 B	B-A	来 期 4~6月期 (予測) C
全産業	264	2.8	△10.6	△13.4	△8.7
製造業	128	0.0	△12.5	△12.5	△9.4
食料品	10	37.5	10.0	△27.5	20.0
繊維製品 (靴下)	25	△16.0	△40.0	△24.0	△16.0
木材・木製品	11	10.0	△18.2	△28.2	△9.1
化学・医薬品	14	△17.6	△35.7	△18.1	△42.9
プラスチック製品	6	28.6	16.7	△11.9	33.3
金属製品・非鉄	18	△4.5	△16.7	△12.1	0.0
機械工業	19	△10.5	△5.3	5.3	△10.5
その他の製造業	10	10.0	20.0	10.0	0.0
非製造業	26	4.2	△3.8	△8.0	△15.4
卸売業	31	△3.1	△22.6	△19.5	△12.9
小売業	15	△21.1	△6.7	14.4	△40.0
建設業	34	2.9	0.0	△2.9	△17.6
不動産業	9	9.1	22.2	13.1	0.0
運輸業	10	15.4	0.0	△15.4	10.0
ホテル・旅館	5	88.9	△80.0	△168.9	100.0
サービス業	11	9.1	△9.1	△18.2	9.1
その他の非製造業	21	0.0	△4.8	△4.8	△9.5

最近の業況に関する主な自由記述は以下のとおり。

最近の業況に関する主な自由記述

改善に関するコメント

業種	内容
プラスチック製品	付加価値が高いリサイクルフィルムの受注が増加した。
その他の製造業	製品単価値上げにより、売上が増加した。
サービス業	インバウンド需要により受注件数が増加し、売上高が伸びた。
運輸業	荷動きが活発となり、運賃が上がった。

悪化に関するコメント

業種	内容
繊維製品	仕入価格上昇分の販売価格への転嫁は、これまでと同様難しい。
木材・木製品	今後も原料費の高騰が続く見通しで、利益率低下が心配される。
プラスチック製品	ホームセンター向けの商品の売れ行きが前年に比べて弱い。
金属製品・非鉄	受注はあるが、人手不足により生産が上がらない。
卸売業	なんとか増収は確保するものの、為替相場の変動により利益水準は厳しい状況。
建設業	資材が全て値上げされる一方で、受注額は比例して増加しない。
不動産業	住宅の販売価格が上昇しており、不動産販売は苦戦している。

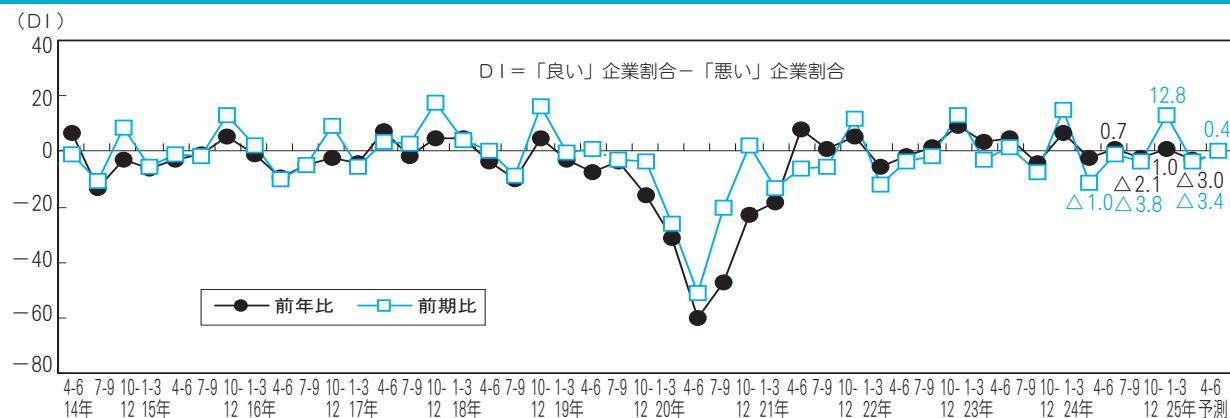
2. 自社の業況

自社の業況は、前期比DIが△3.4と16.2ポイント低下し、2期ぶりに悪化した。前年比も△3.0と4.1ポイント低下し、2期ぶりに悪化した。

来期は0.4と3.8ポイント上昇する見通し。

(注)比較的業績の振るわない企業は回答を敬遠しがちになるため、本調査での「自社の業況」は「所属業界の景気」よりも良好な数値となりやすい。

自社の業況（前年比・前期比、全産業）



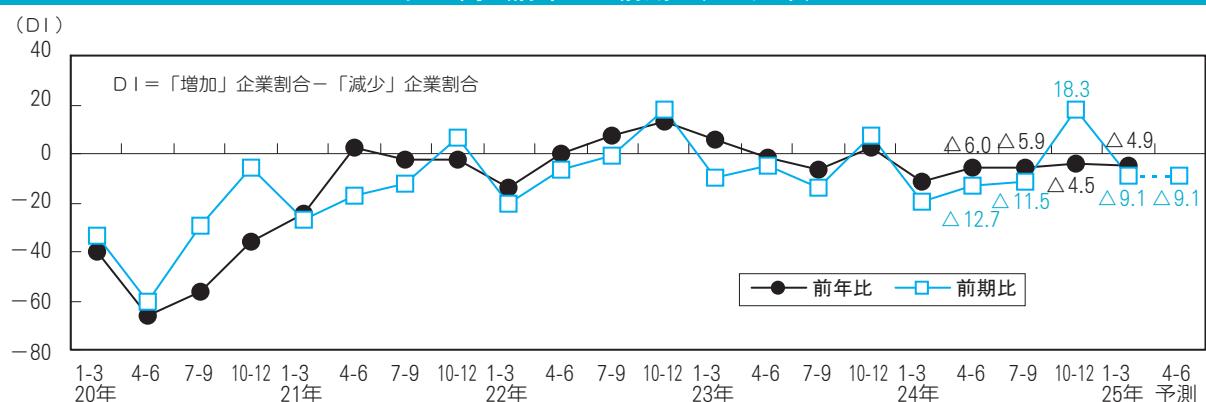
2 企業（自社）の経営状況

*本頁以下の項目は、業界としての判断ではなく、回答企業（自社）内の状況により判断されたものである。

1. 売上高～売上高DIは4期ぶりに悪化～

売上高は、全産業の前期比DIが△9.1と27.4ポイント低下し、4期ぶりに悪化。来期は△9.1と今期から横ばいの見通し。

売上高（前年比・前期比、全産業）



【製造業】

前期比DIは△7.8と22.8ポイント低下。
その他の製造(+3.8ポイント)と機械工業(0.0ポイント)を除く全ての業種が低下した。

来期は、△8.6と0.8ポイント低下する見通し。

【非製造業】

前期比DIは△10.3と31.6ポイント低下。
不動産業(+39.4ポイント)とサービス業(0.0ポイント)を除く全ての業種で低下した。

来期は、ホテル・旅館やサービス業などで上昇が見込まれることから、△9.6と0.7ポイント上昇する見通し。

主要業種の売上高（前期比DI）

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 10~12月期 A	今 期 1~3月期 B	来 期 4~6月期 (予測)C	
				B-A	C-B
全産業	264	18.3	△9.1	△27.4	△9.1
製造業	128	15.0	△7.8	△22.8	△8.6
食料品	10	50.0	0.0	△50.0	30.0
繊維製品 (靴下)	25	24.0	△28.0	△52.0	△28.0
木材・木製品	11	10.0	△36.4	△46.4	△45.5
化学・医薬品	14	△5.9	△35.7	△29.8	△21.4
プラスチック製品	6	42.9	16.7	△26.2	50.0
金属製品・非鉄	18	13.6	5.6	△8.1	△5.6
機械工業	19	5.3	△10.5	△15.8	△5.3
その他の製造業	10	10.0	10.0	0.0	△10.0
	26	0.0	3.8	3.8	△15.4
非製造業	136	21.3	△10.3	△31.6	△9.6
卸売業	31	18.8	△32.3	△51.0	△3.2
小売業	15	15.8	6.7	△9.1	△46.7
建設業	34	25.7	△11.8	△37.5	△32.4
不動産業	9	27.3	66.7	39.4	11.1
運輸業	10	30.8	△20.0	△50.8	0.0
ホテル・旅館	5	55.6	△100.0	△155.6	100.0
サービス業	11	△18.2	△18.2	0.0	27.3
その他の非製造業	21	20.0	9.5	△10.5	△14.3
【近隣他府県】	13	25.0	0.0	△25.0	△7.7

2. 生産高・受注高・操業率～生産高DI・受注高DI・操業率DIいずれも低下～

機械工業など一部の業種で持ち直しの動きが見られたものの、物流費や人件費の高騰、供給不足等により、価格が高騰した食料品をはじめ多くの業種で低下した。

(1) 生産高【製造業】

生産高DIは、△2.4と12.4ポイント低下。金属製品・非鉄(+5.3ポイント)や化学・医薬品(+4.8ポイント)が上昇する一方、食料品(△50.0ポイント)や繊維製品(△24.0ポイント)などで低下した。

来期も、△7.9と5.5ポイント低下する見通し。

(2) 受注高【製造業・建設業】

受注高DIは、△7.9と8.6ポイント低下。化学・医薬品(+33.3ポイント)や機械工業(+30.0ポイント)などが上昇する一方、木材・木製品(△37.0ポイント)や食料品(△35.0ポイント)などで低下した。建設業は△2.9と8.7ポイント低下した。

来期は、製造業が△7.9と今期から横ばい、建設業は△20.6と17.6ポイント低下する見通し。

(3) 操業率【製造業】

操業率DIは、△5.5と0.5ポイント低下。機械工業(+30.0ポイント)やその他の製造業(+11.9ポイント)などが上昇する一方、食料品(△45.0ポイント)や木材・木製品(△15.5ポイント)などで低下した。

来期も、△7.1と1.6ポイント低下する見通し。

製造業の生産高（前期比DI）						
業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 10~12月期 A	今 期		来 期	
			1~3月期 B	B-A	4~6月期 (予測)C	C-B
製造業	127	10.0	△2.4	△12.4	△7.9	△5.5
食料品	10	50.0	0.0	△50.0	40.0	40.0
繊維製品 (靴下)	25	0.0	△24.0	△24.0	△36.0	△12.0
木材・木製品	11	△10.0	△54.5	△44.5	△45.5	9.1
化学・医薬品	14	5.9	△14.3	△20.2	△21.4	△7.1
プラスチック製品	6	28.6	33.3	4.8	66.7	33.3
金属製品・非鉄	17	9.1	5.9	△3.2	0.0	△5.9
機械工業	19	0.0	5.3	5.3	5.3	0.0
その他の製造業	10	10.0	10.0	0.0	△10.0	△20.0
	26	0.0	0.0	0.0	△23.1	△23.1
【近隣他府県】	9	30.8	△11.1	△41.9	△44.4	△33.3

製造業・建設業の受注高（前期比DI）						
業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 10~12月期 A	今 期		来 期	
			1~3月期 B	B-A	4~6月期 (予測)C	C-B
製造業	127	0.7	△7.9	△8.6	△7.9	0.0
食料品	10	25.0	△10.0	△35.0	30.0	40.0
繊維製品 (靴下)	25	0.0	△16.0	△16.0	△28.0	△12.0
木材・木製品	11	△20.0	△36.4	△16.4	△27.3	9.1
化学・医薬品	14	△5.9	△42.9	△37.0	△21.4	21.4
プラスチック製品	6	0.0	33.3	33.3	50.0	16.7
金属製品・非鉄	17	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0
機械工業	19	△5.3	△10.5	△5.3	0.0	10.5
その他の製造業	10	△20.0	10.0	30.0	△10.0	△20.0
	26	4.2	△3.8	△8.0	△23.1	△19.2
【近隣他府県】	9	0.0	△33.3	△33.3	△11.1	22.2
奈良県建設業	34	5.7	△2.9	△8.7	△20.6	△17.6

*近隣他府県の建設業は対象数が少ないため記載していない。

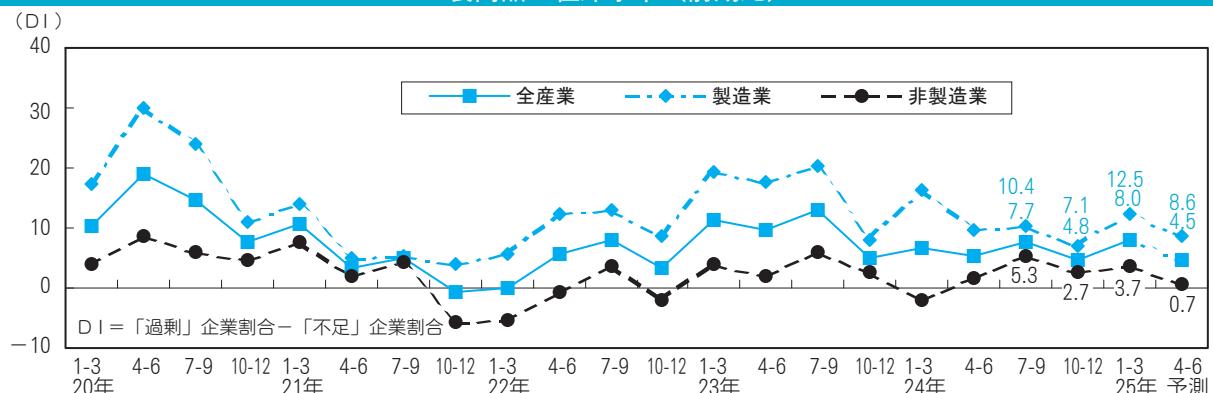
製造業の操業率（前期比DI）						
業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 10~12月期 A	今 期		来 期	
			1~3月期 B	B-A	4~6月期 (予測)C	C-B
製造業	127	△5.0	△5.5	△0.5	△7.1	△1.6
食料品	10	25.0	△20.0	△45.0	40.0	60.0
繊維製品 (靴下)	25	△16.0	△12.0	4.0	△24.0	△12.0
木材・木製品	11	△20.0	△27.3	△7.3	△27.3	0.0
化学・医薬品	14	△5.9	△21.4	△15.5	△21.4	0.0
プラスチック製品	6	14.3	16.7	2.4	33.3	16.7
金属製品・非鉄	17	△9.1	0.0	9.1	5.9	5.9
機械工業	19	△10.5	△15.8	△5.3	△10.5	5.3
その他の製造業	10	△20.0	10.0	30.0	△10.0	△20.0
	26	△4.2	7.7	11.9	△15.4	△23.1
【近隣他府県】	9	15.4	△33.3	△48.7	△55.6	△22.3

3. 製商品の在庫水準 ~ 製造業・非製造業いずれも過剰感が強まった ~

製商品の在庫水準（過不足）は、製造業が 12.5 と 5.4 ポイント上昇して過剰感が強まり、非製造業も 3.7 と 1.0 ポイント上昇して過剰感が強まった。製造業では、金属製品・非鉄（△5.3 ポイント）が不足超に転じた一方、プラスチック製品（0.0 ポイント）で過剰超が解消した。非製造業では、ホテル・旅館（+80.0 ポイント）やサービス業（+9.1 ポイント）などで過剰超に転じた一方、不動産業（△22.2 ポイント）が不足超に転じた。

来期は、製造業は 8.6 と 3.9 ポイント低下して過剰感が弱まり、非製造業も 0.7 と 2.9 ポイント低下して過剰感が弱まる見通し。

製商品の在庫水準（前期比）



4. 仕入・販売価格 ~ 仕入価格DI・販売価格DIはいずれも2期連続上昇～

(1) 仕入価格

全産業の仕入価格DI（前期比）は、70.8 と 7.4 ポイント上昇し、2期連続の上昇となった。業種別にみると、製造業は 71.9 と 7.6 ポイント上昇し、非製造業も 69.9 と 7.2 ポイント上昇した。

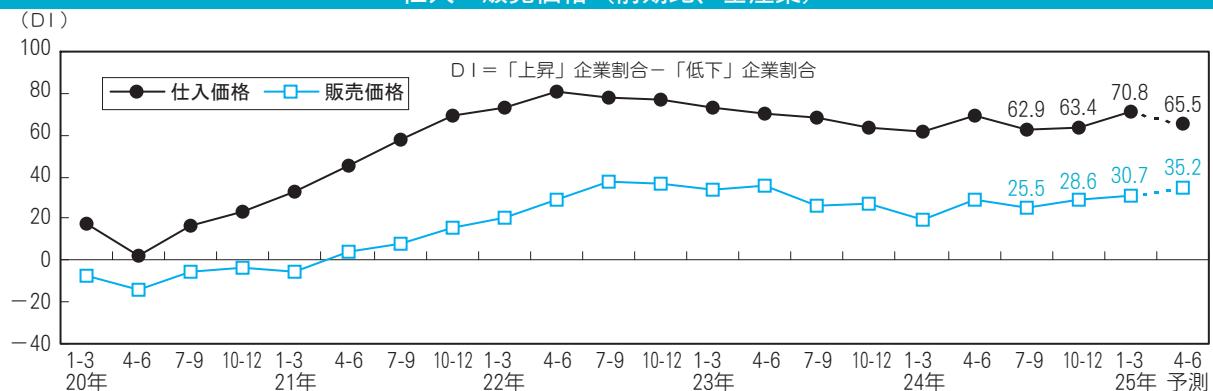
来期は、65.5 と 5.3 ポイント低下する見通し。

(2) 販売価格

全産業の販売価格DI（前期比）は、30.7 と 2.1 ポイント上昇し、2期連続の上昇となった。業種別にみると、製造業が 25.8 と 0.8 ポイント上昇し、非製造業も 35.3 と 3.3 ポイント上昇した。

来期は、35.2 と 4.5 ポイント上昇する見通し。

仕入・販売価格（前期比、全産業）

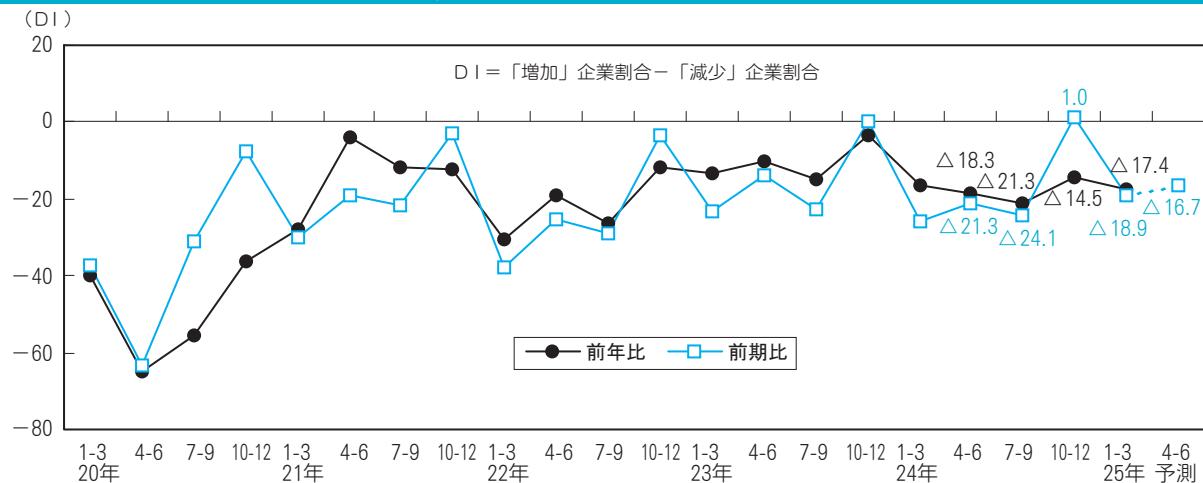


5. 経常利益～経常利益DIは2期ぶりに悪化～

経常利益は、全産業の前期比DIが△18.9と20.0ポイント低下し、2期ぶりに悪化。業種別にみると、製造業は△19.5と20.2ポイント低下し、非製造業も△18.4と19.7ポイント低下した。

来期は△16.7と2.3ポイント上昇する見通し。

経常利益（前年比・前期比、全産業）

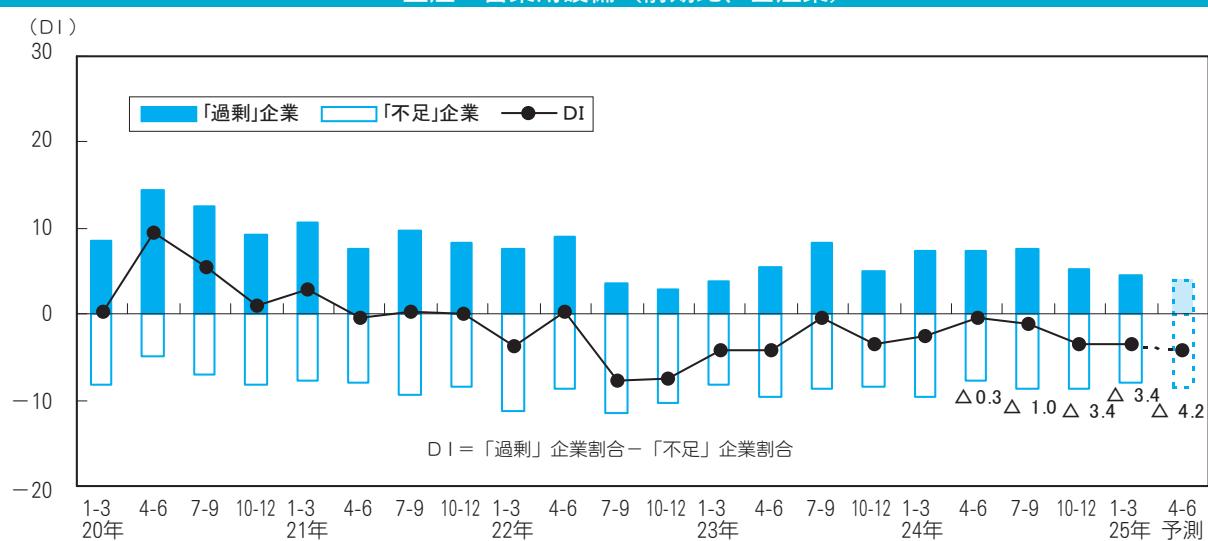


6. 生産・営業用設備～前期から横ばい～

生産・営業用設備の水準は、全産業の前期比DIは△3.4と前期から横ばい。業種別にみると、製造業は△2.3と4.5ポイント低下して不足超に転じる一方、非製造業は△4.4と4.3ポイント上昇して不足感が弱まった。

来期は、△4.2と0.8ポイント低下して不足感が強まる見通し。

生産・営業用設備（前期比、全産業）

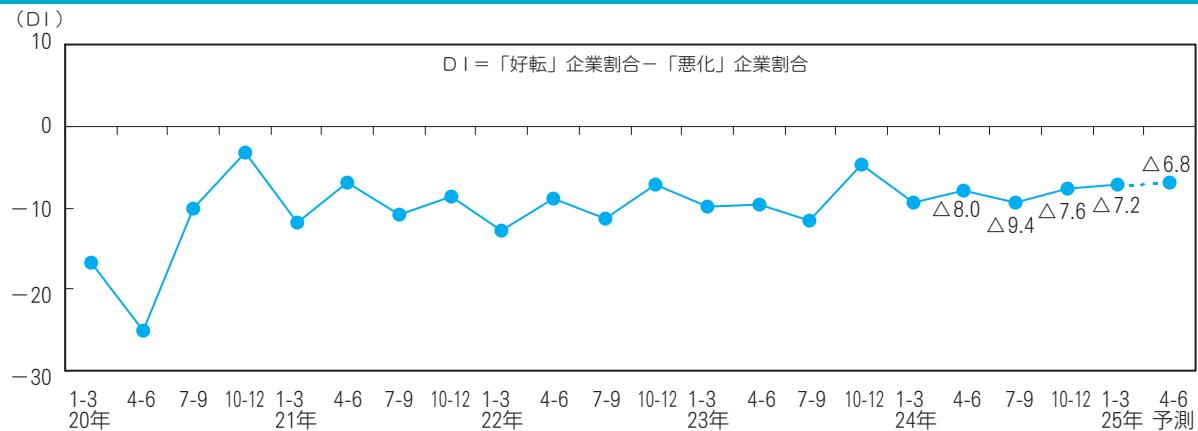


7. 資金繰り～資金繰りDIは2期連続で改善～

全産業の資金繰りDI（前期比）は、△7.2と0.4ポイント上昇し、2期連続で改善した。業種別にみると、製造業が△6.3と2.3ポイント改善し、非製造業は△8.1と1.4ポイント悪化した。

来期は、△6.8と0.4ポイント改善する見通し。

資金繰り（前期比、全産業）

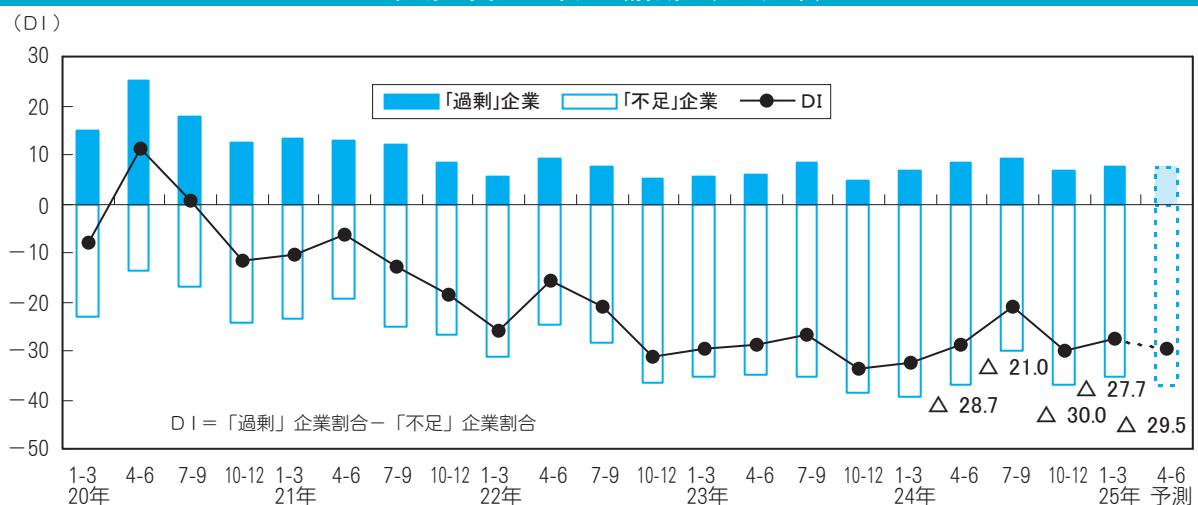


3 雇用人員～2期ぶりに不足感が弱まった～

全産業の雇用人員過不足状況DI（前期比）は△27.7と2.3ポイント上昇し、18期連続で不足感が続くなか、2期ぶりに不足感が弱まった。業種別にみると、製造業は△15.6と2.9ポイント上昇し、非製造業も△39.0と1.7ポイント上昇していずれも不足感が弱まった。

来期は、△29.5と1.9ポイント低下して不足感が強まる見通し。

雇用人員の過不足（前期比、全産業）

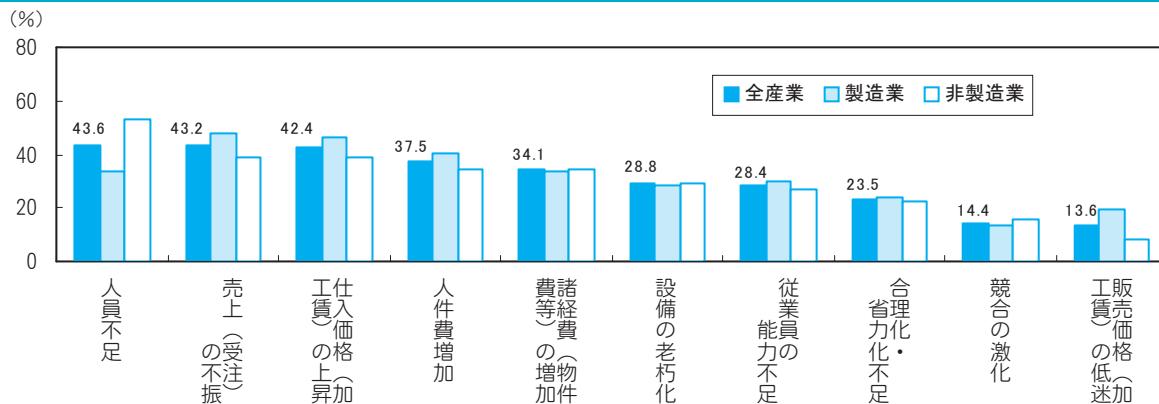


4 経営上の問題点、経営戦略

1. 経営上の問題点 ~ 製造業は「売上（受注）の不振」が、非製造業は「人員不足」が最多~

全産業の上位3項目は、「人員不足」(43.6%)、「売上（受注）の不振」(43.2%)、「仕入価格（加工賃）の上昇」(42.4%)だった。製造業では「売上（受注）の不振」(47.7%)、「仕入価格（加工賃）の上昇」(46.1%)、非製造業では「人員不足」(52.9%)、「売上（受注）の不振」、「仕入価格（加工賃）の上昇」(いずれも39.0%)だった。

経営上の問題点（複数回答）【全産業の上位10位】



経営上の問題点（複数回答）

	回答企業数	人員不足	の売上不振（受注）	の（仕入加工賃）価格	人件費増加	増加諸経費等の物	化設備の老朽	力従業員の能	力合理化不足・省	競合の激化	の（加工賃）販売価格
全産業	264	43.6	43.2	42.4	37.5	34.1	28.8	28.4	23.5	14.4	13.6
製造業	128	33.6	47.7	46.1	40.6	33.6	28.1	29.7	24.2	13.3	19.5
食料品	10	40.0	30.0	50.0	60.0	70.0	40.0	20.0	30.0	20.0	10.0
繊維製品	25	28.0	48.0	68.0	64.0	32.0	20.0	16.0	16.0	12.0	20.0
(靴下)	11	9.1	54.5	63.6	72.7	9.1	27.3	18.2	18.2	9.1	18.2
木材・木製品	14	21.4	57.1	35.7	21.4	28.6	35.7	35.7	21.4	0.0	35.7
化学・医薬品	6	66.7	16.7	33.3	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7
プラスチック製品	18	27.8	22.2	44.4	33.3	33.3	16.7	38.9	33.3	33.3	27.8
金属製品・非鉄	19	36.8	63.2	42.1	42.1	31.6	42.1	31.6	42.1	5.3	21.1
機械工業	10	60.0	50.0	30.0	30.0	40.0	10.0	40.0	10.0	10.0	10.0
その他の製造業	26	26.9	61.5	42.3	30.8	30.8	30.8	34.6	19.2	15.4	11.5
非製造業	136	52.9	39.0	39.0	34.6	34.6	29.4	27.2	22.8	15.4	8.1
卸売業	31	22.6	48.4	35.5	29.0	64.5	22.6	19.4	19.4	16.1	19.4
小売業	15	53.3	46.7	46.7	13.3	33.3	46.7	33.3	0.0	13.3	6.7
建設業	34	79.4	38.2	52.9	47.1	23.5	5.9	32.4	20.6	17.6	2.9
不動産業	9	33.3	0.0	11.1	22.2	22.2	44.4	22.2	33.3	11.1	0.0
運輸業	10	80.0	20.0	30.0	40.0	20.0	10.0	40.0	20.0	0.0	0.0
ホテル・旅館	5	20.0	40.0	40.0	60.0	40.0	60.0	20.0	40.0	20.0	0.0
サービス業	11	81.8	45.5	36.4	45.5	27.3	45.5	9.1	9.1	18.2	9.1
その他の非製造業	21	42.9	42.9	33.3	28.6	23.8	52.4	33.3	47.6	19.0	9.5

全産業平均を10ポイント以上、上回る比率の部分に網掛けしている。

2. 重視する経営戦略 ~ 製造業は「既存製商品・サービスの高付加価値化」が、非製造業は「人材育成」が最多~

全産業の上位3項目は、「人材育成」(48.1%)、「既存製商品・サービスの高付加価値化」(47.7%)、「合理化・コストダウンの徹底」(42.4%)だった。製造業では「既存製商品・サービスの高付加価値化」(54.7%)が最多、非製造業では「人材育成」(52.9%)が最多だった。

	重視する経営戦略（複数回答）											
	全産業		製造業				非製造業				(%)	
			今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回		
人材育成	①	48.1	②	44.1	③	43.0	⑤	35.0	①	52.9	①	52.7
既存製商品・サービスの高付加価値化	②	47.7	①	49.7	①	54.7	①	57.9	③	41.2	②	42.0
合理化・コストダウンの徹底	③	42.4	③	39.3	④	42.2	④	38.6	②	42.6	③	40.0
新規販売先（受注先）の開拓	④	37.5	④	36.9	⑤	40.6	③	45.0	⑤	34.6	⑥	29.3
新製商品・新サービス開発への注力	⑤	35.2	⑥	32.8	②	45.3	②	46.4	⑦	25.7	⑩	20.0
営業部門の強化	⑥	33.7	⑤	34.5	⑦	30.5	⑧	28.6	④	36.8	③	40.0
技術力・企画力の強化	⑦	29.2	⑦	31.0	⑥	33.6	⑦	30.0	⑧	25.0	⑤	32.0
新分野・新規事業への進出	⑧	21.6	⑧	27.2	⑧	25.0	⑥	34.3	⑩	18.4	⑧	20.7
情報化の推進	⑨	21.2	⑨	20.3	⑬	12.5	⑪	14.3	⑥	29.4	⑦	26.0
仕入先の見直し	⑩	17.4	⑩	19.0	⑩	14.8	⑩	17.1	⑨	19.9	⑧	20.7

全産業の上位10位。丸数字は順位。各回の上位3位に網掛けしている。

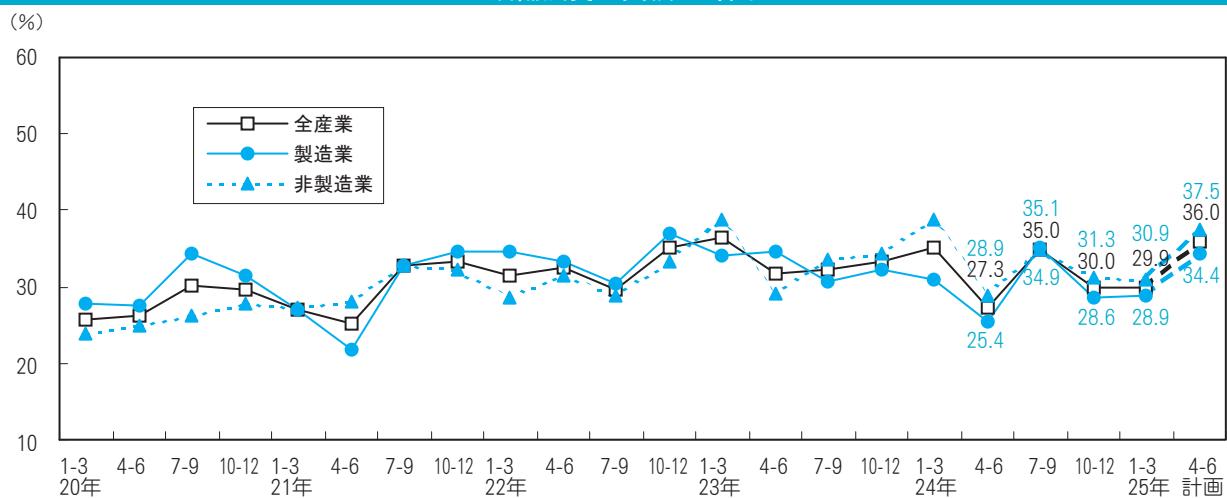
5 設備投資の動向

1. 設備投資の実績と計画 ~ 実績は、製造業は上昇、非製造業は低下 ~

設備投資実績（実施企業の割合）は、製造業が28.9%で0.3ポイント上昇、非製造業が30.9%と0.5ポイント低下した。

来期の計画は、製造業が34.4%、非製造業が37.5%とともに上昇の見通し。

設備投資の実績と計画



今期の実績を業種別にみると、製造業は化学・医薬品（66.7%）、食料品（50.0%）で投資需要が旺盛である。

非製造業は運輸業（60.0%）、その他の非製造業（57.1%）、ホテル・旅館（40.0%）で割合が高い。

来期は、製造業は化学・医薬品（83.3%）で、非製造業はその他の非製造業（66.7%）やホテル・旅館（50.0%）で、投資需要が旺盛である。

設備投資の実績と計画（業種別）						
	回答企業数	前期10~12月期（実績）A	今期1~3月期（実績）B	B-A	来期4~6月期（計画）C	(%) C-B
全産業	264	30.0	29.9	△0.1	36.0	6.1
製造業	128	28.6	28.9	0.3	34.4	5.5
食料品	10	31.3	50.0	18.8	40.0	△10.0
織維製品 (靴下)	25 11	28.0 20.0	24.0 18.2	△4.0 △1.8	16.0 0.0	△8.0 △18.2
木材・木製品	14	23.5	35.7	12.2	35.7	0.0
化学・医薬品	6	57.1	66.7	9.5	83.3	16.7
プラスチック製品	18	40.9	27.8	△13.1	33.3	5.6
金属製品・非鉄	19	15.8	36.8	21.1	42.1	5.3
機械工業	10	40.0	20.0	△20.0	40.0	20.0
その他の製造業	26	16.7	11.5	△5.1	30.8	19.2
非製造業	136	31.3	30.9	△0.5	37.5	6.6
卸売業	31	34.4	19.4	△15.0	32.3	12.9
小売業	15	31.6	26.7	△4.9	26.7	0.0
建設業	34	20.0	14.7	△5.3	26.5	11.8
不動産業	9	36.4	33.3	△3.0	22.2	△11.1
運輸業	10	30.8	60.0	29.2	50.0	△10.0
ホテル・旅館	5	44.4	40.0	△4.4	40.0	0.0
サービス業	11	27.3	36.4	9.1	45.5	9.1
その他の非製造業	21	40.0	57.1	17.1	66.7	9.5

各期の全産業平均を10ポイント以上、上回る実績の部分に網掛けしている。

2. 設備投資の目的～製造業、非製造業とともに「既存設備の改修・更新」がトップ～

製造業の設備投資目的は、「既存設備の改修・更新」（64.9%）が最多で、以下「合理化・省力化」（32.4%）、「生産・販売能力の増強」（29.7%）が続く。

非製造業では、「既存設備の改修・更新」（57.1%）が最多で、以下「合理化・省力化」（31.0%）、「生産・販売能力の増強」（28.6%）と続く。

来期の設備投資計画は、製造業では「既存設備の改修・更新」（65.9%）、「合理化・省力化」（43.2%）、「生産・販売能力の増強」（34.1%）が続く。非製造業では「既存設備の改修・更新」（51.0%）、「合理化・省力化」（37.3%）、「店舗・工場等の新設・増改築」（27.5%）の順となっている。
(岡村俊幸)

	設備投資の目的（複数回答）									
	製造業			非製造業						
	前 期 10~12月期 (実績) A	今 期 1~3月期 (実績) B	来 期 4~6月期 (計画) C	前 期 10~12月期 (実績) A	今 期 1~3月期 (実績) B	来 期 4~6月期 (計画) C	(%) C-B			
店舗・工場等の新設・増改築	7.5	10.8	3.3	4.5	△6.3	17.0	21.4	4.4	27.5	6.0
生産・販売能力の増強	30.0	29.7	△0.3	34.1	4.4	21.3	28.6	7.3	21.6	△7.0
合理化・省力化	30.0	32.4	2.4	43.2	10.7	31.9	31.0	△1.0	37.3	6.3
既存設備の改修・更新	62.5	64.9	2.4	65.9	1.0	59.6	57.1	△2.4	51.0	△6.2
技術・研究開発	15.0	13.5	△1.5	15.9	2.4	6.4	4.8	△1.6	7.8	3.1
新製品製造	20.0	5.4	△14.6	18.2	12.8	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
新規事業進出	5.0	5.4	0.4	4.5	△0.9	8.5	2.4	△6.1	7.8	5.5
事業転換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
情報化	2.5	0.0	△2.5	0.0	0.0	10.6	9.5	△1.1	17.6	8.1
環境対策	10.0	2.7	△7.3	2.3	△0.4	0.0	2.4	2.4	5.9	3.5
福利厚生	5.0	5.4	0.4	4.5	△0.9	2.1	4.8	2.6	5.9	1.1
その他	0.0	2.7	2.7	2.3	△0.4	2.1	4.8	2.6	0.0	△4.8

各期の上位3位に網掛けしている。

